

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年11月11日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871500138		
法人名	有限会社 ハートビル		
事業所名	グループホーム あとむ	ユニット名	A棟
所在地	〒319-1541 茨城県北茨城市磯原町磯原2334-29		
自己評価作成日	平成25年5月17日	評価結果 市町村受理日	平成25年11月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0871500138-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0871500138-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年7月26日	評価確定日	平成25年10月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・年度目標である「ともに暮らす」を考え、とにかく何をすることも、お客様と一緒に実践することに注力している。</p> <p>・趣味の工房室「かもめ」を利用して、普段と違った環境・雰囲気を提供し、自己表現、自己決定をすることが出来、評価される喜びを提供している。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は自然に囲まれた静かな住宅街の一角にある。 3ユニットはそれぞれ独立して建てられており、利用者は自宅にいるような感覚で各ユニット間を行き来して交流している。 自治会に加入し、職員は自治会の新年会や地域の清掃活動、バーベキュー大会に参加しているほか、事業所の秋祭りに地域の人々を招待して利用者が地域の人々と交流が図れるよう努めている。 今年度の目標である「ともに暮らす」を事務所に掲示し、利用者と職員と一緒に自家菜園で野菜を育てたり、収穫したりして食材に活用しているほか、年間の行事計画を立てて様々な場所に外出したり、秋には秋刀魚の炭火焼き、正月にはもちつき大会をしたりして、季節の味を楽しみながら家庭的な雰囲気の中でともに暮らしている。 職員は利用者の生活歴を把握するとともに、出勤したら利用者一人ひとりと挨拶を交わしながらその日の状態をきめ細かく観察し、利用者に寄り添ったケアができるように心がけている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲げると共に、ケア会議などの時に確認し合い実施している。管理者、職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念のほかに理念をより具体化した「あとむ運営理念」を作成している。 「あとむ運営理念」の中で「認知症高齢者が地域と共にある暮らしをめざす」を謳い、各ユニットの事務室に掲示している。 職員は職員会議や日々の業務の中で理念について話し合うとともに、理念を名札の裏に携帯して確認し、共有を図りながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常会に加入し、行事に参加すると共に、近所の子供たちが訪れたり、自治会、老人会、行事等地域活動に参加し、地元の人々との交流に努めている。	自治会に加入し、職員は地域の新年会や清掃活動、バーベキュー大会に参加している。 事業所に隣接する土地を借りて地域の人々に開放しており、そこで自治会主催のバーベキュー大会や地域の人々を招待して事業所主催の秋祭りを行ったりしている。 自治会主催のバーベキュー大会では事業所からベンチやテント、バーベキューセットを貸し出すなど、地域で必要とされる役割を担っている。 空き地には自治会と事業所が協力して作ったゴルフの打ちっぱなしやパターの練習場があり、地域の人々が練習に訪れているほか、自治会の人々が草刈りをしてくれたり、年に数回自治会のゴルフ同好会と事業所職員とでゴルフコンペを行ったりするなど、親密に交流して協力関係を築いている。 3ユニットの中心に、以前は粘土細工などのレクリエーションに使用していた趣味の工房室「かもめ」があるが、現在は月1回地域の人々に無料でラーメンやうどん、かき氷などを提供する「かもめ食事処」として活用しており、利用者や地域の人々との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	孤立することなく、地域の一員として常会に加入し、地域活動にも参加し、地元の人々との交流に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、定期的に運営推進会議を開催している。委員から出された意見を活かし、職員の身なりや服装などについて、清潔感の向上に取り組んでいる。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、地域住民の代表などで2ヶ月に1回グループホームと小規模多機能型居宅介護事業所との合同で開催し、会議録を作成している。 会議では行事報告や事業所の状況報告をするほか、委員と活発な意見交換をしている。 委員から「事業所周辺の草刈りをして欲しい」との要望を受けて職員が草刈りをしているほか、「1月に設置したAEDの使用方法について消防署による講習会を実施してはどうか」との意見を受け、近隣住民に案内状を配布して実施するなど、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と電話だけでなく、お互いに行き来し、協力関係を築いている。	市職員や地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけではなく毎週市担当者を訪問し、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えたり、相談したりして協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面の配慮を第一に考えながら身体拘束のない介護に取り組んでいる。実施する際は、家族に了承を得た後、実施し、記録している。	玄関は施錠せず、職員は利用者の自由な生活を支援しているが、事業所の裏側には山があり、崖になって危険なので、家族等の同意を得たうえで利用者の外出を察知するためのセンサー式ブザーを玄関に設置している。 利用者が車いすからずり落ちないように、家族等の承諾を得たうえでY字帯を使用している利用者があるが、食事時や体操時に限定してなるべくソファで過ごせるよう支援している。 職員は支援経過にY字帯を使用した時間を記録するとともに、ケア会議などで話し合い、なるべく身体拘束をしないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員が虐待防止法について理解をし、認識し、注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料にて学ぶ機会はあるが、活用までには至っていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、不安な点や疑問点を尋ね、十分な説明、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口と担当者名、外部機関として、市の介護保険課を重要事項説明書に明示し、玄関にも掲示、意見箱を設置している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。 前回の外部評価結果で、利用者や家族等の意見や要望を記録するよう提案があり、管理者は各ユニットに意見や要望ノートを設置したが記載されることはなく、利用者や家族等の意見や要望を汲みあげるまでには至っていない。	直接意見や要望を出し難い利用者や家族等に配慮し、年1回程度無記名の家族アンケートを実施して意見等を汲みあげ、運営に反映させるとともに、結果を運営推進会議で話し合うほか、利用者や家族等に報告することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のケア会議などで職員の意見を聞く機会を設け、主任会議で話し合えるようにしている。	管理者は月1回の職員会議で職員の意見や要望を聴いたり、2ヶ月に1回開催する各ユニットの管理者会議で職員の意見等を話し合っている。 管理者は職員が意見や要望を出し易い雰囲気づくりに努めるとともに、休憩時間を利用して職員と活発に意見交換をしている。 職員から「書棚が欲しい」との要望があり、各ユニットに書棚を購入したり、「利用者の足のむくみを改善させたい」との意見を受けて各ユニットにフットマッサージ機を購入するなど、職員の意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己チェックシートなどを作り、各自の努力、実績、勤務状況を把握し、各自向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護に関する実践研修やグループホーム管理者研修などの受講はもとより、法人内研修に参加する機会を作っている。研修報告を行うと共に、報告書を職員で共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームや特別養護老人ホーム、協力病院の運営する施設等の交流をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自己紹介をし、お互いの名前を言ったり常に声かけしながら、なじみの関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも何度も面会、連絡を取り、不安・要望に耳を傾けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不穏な状態を取り除くように、その状況に沿った対応をするよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で職員と一緒に掃除をしたり、食事作りや洗濯たたみをしたりして、共に暮らしているという関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の他に行事にも参加頂き、本人と一緒に過ごす事で絆を深め、現状を見て安心していただくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで本人が使用していた物や大事にしている物を持ち込んだり、面会や外出、外泊ができるよう声かけしている。	職員は利用者の家族等や知人が来訪した際に利用者の居室で気兼ねなく話ができるようお茶を出して接待するほか、遠方から来た親戚には、居室で利用者と一緒に昼食が摂れるよう配慮するなど、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。 年末年始には利用者が自宅に外出したり、泊まったりできるよう支援しているほか、馴染みの美容師に月1回程度来訪してもらえるよう連絡調整を行うなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルがあった場合など、スタッフが間に入り、お互いの関わりを改善させるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人、ご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	欲しい物、不足の物があれば提供したり、一緒に買いに行くよう努めている。	職員は基本情報で利用者の生活歴や思いを把握するとともに、一人ひとりに寄り添ったケアに心がけている。 職員は出勤したら利用者一人ひとりと挨拶を交わして状態をきめ細かく観察し、利用者に変化が見られた場合は職員で話し合い、注意深く見守りを行っている。 意志疎通が困難な利用者の場合は家族等の来訪時や電話で話を聞いたり、しぐさや行動から思いを推し量り、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ファイルなどを用いて、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日誌、バイタルチェックなどで1人1人の現状把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のケア会議を全員参加で行い、お客様の現状を把握したうえで計画を作成をしている。	介護計画は利用者の意見等のほか、家族等から面会時や電話で聴いた意見等を基に、各ユニット毎に計画作成担当者や職員で話し合って作成するとともに、モニタリングを実施して6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌及び申し送りノートなどで情報の共有を図り、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「かもめ」でも食堂や趣味活動の場を作り、柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	よーそろーなどで外食したり、お花見や紅葉狩りなどに行き、お客様に楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ主治医への受診を支援している。 協力医療機関から月に一度の定期的な往診を受けるなど適切な支援をしている。	契約時に利用者や家族等にかかりつけ医を確認している。 数ヶ所の協力医療機関と連携しており、殆どの利用者は協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。 受診は職員が付き添い、薬の変更があったり、急な受診の場合は電話で家族等に報告している。 月1回定期的に協力医療機関の医師による訪問診療があるほか、利用者の状態に応じて歯科医師や皮膚科医師の訪問診療があり、緊急時を含め適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に異常があれば上長に報告し、看護職員に相談し、かかりつけ主治医へ連絡し、適切な受診が受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者、ご家族も含め、情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、家族、主治医と話し合いの上対応するという運営方針の統一を図っている。	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、契約時に説明して同意を得ている。現在までに終末期に近い利用者はいたが、看取りの経験はない。職員は重度化や終末期に向けて職員会議などで話し合っている。利用者が終末期を迎えた場合は、協力医療機関の医師や家族等と話し合い、チームを結成して取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを基に、職員は応急手当、初期対応などの実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火訓練を実施している。地域の方々にも集まりごとの度に協力してもらえよう依頼し、一緒に訓練している。災害に備えた備蓄（米、水など）を行っている。	消防署立会いのもと夜間を想定した総合避難訓練を含め、避難訓練を年2回実施するとともに、地域の人々の参加を得ながら消防署による消火器の使用方法やAEDの講習会を実施し、訓練後は検討会を行って実施記録を作成している。災害時に備えて各ユニット毎に米や飲料水、味噌、懐中電灯などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活の中で排泄や着替え、入浴時など1人1人の尊厳を大切にしながら支援している。	職員は利用者の羞恥心や自尊心に配慮し、入浴介助は一人ずつ対応をしたり、着脱の際にタオルを掛けたりしているほか、トイレ誘導は小声で話しかけたり、排泄時にはトイレの外で待つなど、プライバシーを損ねない対応をしている。 職員はプライバシー保護に関する外部研修を受講しているほか、職員会議などで話し合い、全職員で共有している。 個人情報に関する書類は事務所の書棚に保管しているほか、重要書類は鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や会話の中で、出来る限り本人の希望に添えるように、また自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れは決まっているが、お客様1人1人のレベルや、やりたい事を見極めて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回パーマ屋さんが来て髪を整えている。また、本人の希望により、毛染めやマニキュアも行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る範囲で、食事作りや配膳、食器拭きを行っている、食事も何が食べたいかを聞き、調理する際の参考にしている。 また、月に一度の「かもめ食堂」で外食気分を味わってもらえるように工夫している。	職員は利用者の好みを聞きながら献立を決めているほか、食事介助をしたり、声かけをしたりしながら、利用者と同じ食事を摂っている。 各ユニットで栽培している自家菜園の収穫物を食材に使い、利用者は職員と一緒に下ごしらえをしたり、味見や食器拭きをしたりするなど、能力に応じた役割を担っている。 月1回「かもめ食事処」でラーメンやうどん、かき氷を提供し、外食気分が味わえるよう工夫している。 クリスマス会やもちつき大会などの季節行事には特別食を提供したり、秋には秋刀魚の炭火焼きを提供したりして、利用者が食事を楽しめるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量、水分量を日誌に記録している。また、水分補給が困難なお客様にはお茶ゼリーを提供し、十分な水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は歯科医の指示をもらい、毎食後の歯磨き、うがいを徹底している。また、週2回、入歯の洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、お客様1人1人の排泄パターンを把握し、極力トイレで排泄できるよう支援している。	殆どの利用者が紙パンツを使用しているが、職員は排泄チェック表を作成して利用者の排泄パターンを把握するとともに、なるべくトイレで排泄ができるようきめ細かに声をかけたり、時間を決めてトイレに誘導しているほか、一人で排泄ができる利用者の場合は、排泄チェック表を活用しながら個人のリズムに合わせたトイレ誘導をしている。 利用者の状態に応じて居室にポータブルトイレを配置し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、レクを実施し、水分も多めに摂取するよう支援している。また、下剤も上手に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴やシャワー浴を本人の意向、健康状態に沿って、場合によっては翌日に入浴できるよう支援している。	基本的に週3回午後の時間帯の入浴を支援している。 入浴を拒む利用者には声かけする職員を替えたり、翌日に声かけをして無理なく入浴ができるよう支援をしている。 浴室に手すりを設置するとともに、シャワーチェアを用意して安全に入浴ができるよう支援をしている。 冬は体が温まるよう入浴剤を使用し、利用者がゆったり入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の健康状態にあわせて、休息したり消灯までは自由にTVを観たり、雑談したり各自の状況に応じて入床している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様が使用する薬の目的や副作用、用法・用量を理解しており、お客様1人1人が医師の指示通り服薬できるよう支援し、症状の変化の確認に努めている。 また、薬の説明表をファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かせるようなことを提供したり、散歩や草取りなどで気分転換を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は日光浴や散歩を実施している。また、年に1回は家族の方も交えた食事会を実施している。	天気の良い日は利用者の体調に合わせて近隣を散歩したり、庭で外気浴ができるように支援している。 年間の外出計画を立てて花見や紅葉刈り、買い物などに出かけられるよう支援しているほか、家族等の協力を得ながら外食などにも出かけられるよう支援をしている。 通院の帰りにホームセンターなどに立ち寄ったり、食べ物や洋服など利用者が買いたい物をいつでも買いに出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心するお客様がいれば小額ではあるが、お金を所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望があれば、電話をしたり、手紙を書いて送ったりできるよう支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングに花を飾ったり、正月、節句、納涼祭、クリスマスなどの行事を行い、季節感、生活感を出し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居間兼食堂は広く観葉植物や季節の花を配置したり、利用者と職員で制作した紫陽花のちぎり絵を飾ったりしているほか、七夕の飾り付けをするなど、季節を感じさせる空間となっている。 居間兼食堂の一角にソファを配置して利用者同士が会話をしたり、ゆったり過ごせるよう配慮している。 廊下やトイレは広く一定の温度に保たれているほか、清潔に保たれている。 利用者が寛いだ時間を過ごせるよう居間にフットマッサージ機を設置するとともに、足のむくみの改善に役立っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事する席とは別に、自由にTVを観たり雑談したり、気の合うお客様同士が座れるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた小物や家具、衣類など気に入ったものを持参したり、絵や写真などを飾って、お客様が居心地良く暮らせるようにしている。	居室はフローリングでエアコンやカーテン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。 管理者は契約時に利用者や家族等に使い慣れた物品を持参してもらえよう説明している。 利用者は今まで使っていたタンスや椅子、鏡、テレビなどを持ち込み、これまでと同じような生活ができるように自分好みの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレへの手摺、表示の設置、居室内での立ち上がり等が不安なお客様の部屋にセンサーを設置して、すぐに掛けつけられるよう安全に生活が送れるよう支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム あとむ

作成日 平成25年11月6日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	20	比較的介護度が低く、歩行などが自立したお客様の外出は安易に出来るが、介護度の重いお客様も外出の機会を増やしたい。	全員一緒若しくは、介護度の重い方を重点的に。	会社全体での車両の見直し及び人員の配置の工夫	6ヶ月
2	18	あとむの年度目標「ともに暮らす」の実現に向け、更なる行動の実践。	何をするにもお客様とともに行うよう実践する。	何をするにも一緒に行うことは、全てがケアに繋がる。重度の方にも積極的に参加して頂き、ともに暮らしていることを肌で感じてもらう。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。